

魚類

A : 4 種
B : 12 種
要調査 : 1 種



A ヤリタナゴ



流れが緩やかな川や用水路などにすんでいます。ドブガイなどの大きめの二枚貝に管をさしこんで卵を産み、貝の中で子どもが育つという習性があります。

A ドジョウ



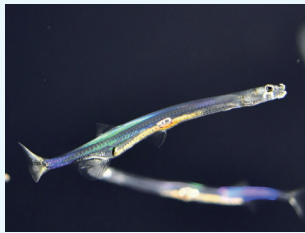
水田や水路などにすんでいます。細長い体に、10本の口ひげがあります。水の中の酸素が少ないときは水面の空気を吸って腸で呼吸することができます。

A チュウガタスジマドジョウ



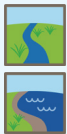
流れの緩やかな川の中流から下流や用水路などにすんでいます。細長い体にしま模様があり、6本の口ひげがあります。川の改修工事などで数が減っています。

A シラウオ



川の水と海水が混ざる汽水域にすむ、小さくて細長い魚です。体は半透明で、骨や内臓が透けて見えます。春に川をさかのぼって卵を産みます。

B ニホンウナギ



海岸から川の上流まで広くすんでいます。日本から遠く離れた海で卵を産み、生まれた子どもはしばらく海をたどった後、川をさかのぼって成長します。

B ギンブナ



ため池や水路などの流れの緩やかな場所にすんでいます。藻や水の中の虫など、いろいろなものを食べます。メスだけで子どもを増やせることがわかっています。

B ヌمامツ



川の中流から下流の流れの緩やかな場所に多い魚です。川の上流側にすむカワムツとよく似ていて、20年ほど前までは同じ種とされていました。

B カマツカ



川の中流から下流や水路などの、底に砂の多い場所を好みます。いつも水底にいて、砂の中の虫などを食べ、敵がくると砂に潜って隠れます。

明石いきものコラム

ギンブナとヘラブナ

明石市レッドリストでカテゴリ B とされているギンブナ。実は全国的にはそれほど珍しい魚ではありません。むしろどこにでもたくさんいるのでは？と思う方もいるかもしれません。なぜ明石市ではギンブナが減っているのでしょうか。

原因は、釣りをする人などが池に放す「ヘラブナ」です。ヘラブナはもとはゲンゴロウブナという種類で、琵琶湖や淀川にしかいない魚でした。ギンブナよりもヘラブナのほうが、おなかから背中幅(「体高」といいます)が大きいという特徴があります。もともとギンブナと近い種類なので、放流されたヘラブナがギンブナのすみかをうばうことになり、ギンブナが減ってしまったのです。

人の手によって生きものを放すときには、もともとそこにくらす生きもののかをよく考える必要があります。

ギンブナ



ゲンゴロウブナ(ヘラブナ)



B イトモコ



川の中流から下流とそれに続く水路において、水底近くを群れで泳いでいます。体の真ん中を通るうろこは他より大きく、黒い斑点があり、全体に黒い線に見えます。

B コウライモコ



川の中流から下流とそれに続く水路において、流れの緩やかな砂や石の底を好みます。川と農業用水路を行ったり来たりして生活します。長めの口ひげがあります。

B アユ



大人のアユは川の上流から中流にすんでいます。秋に生まれた子どもは海まで流されて冬をこし、春に川をさかのぼって、1年で一生を終えます。

B ミナミメダカ



川や池、田んぼ、水路などの、流れが緩やかで水草の多い場所にすんでいます。浅いところで水面近くを群れで泳ぎ、プランクトンなどを食べています。

B カワアナゴ



川の下流から海の近くまでいます。昼間は石や流木などの隠れ場が多いところに潜んでいて、夜に活動します。体の色は周りの色に合わせて変わります。

B ミミズハゼ



ミミズのような細長い体で、川の中流から河口の石や砂利の隙間に潜んでくらししています。川で生まれた子どもは海に下り、少し大きくなると川に戻ってきます。

B ウキゴリ



川の中流から海の近くまでの流れの緩やかなところにあります。川底の石の下にぶらさがるようにたくさんの卵を産み、生まれるまでオスが卵を守ります。

B ゴクラクハゼ



川の下流から海の近くまでの砂底において、砂や小石の間を泳いで小さな虫などを食べています。石の下の卵をオスが守り、生まれた子どもは海へ下ります。

要 カネヒラ



川や水路などの流れの緩やかな場所にすむ、体長 12cm ほどの大型のタナゴの仲間です。イシガイなどの二枚貝に卵を産み、貝の中で子どもが育ちます。

守りたい 田んぼとため池

明石市にたくさんあるため池ですが、その数は年々減ってきています。1971年に473あったため池は、2005年には111に減りました（明石市教育委員会『明石のため池』より）。田んぼでの米作りのために作られたため池は、田んぼが減るとともに役目を終え、埋め立てられてきたのです。

田んぼやため池、水路、周りの草地は、お互いにつながりあって、たくさんの生きものたちのすみかとなっています。水の中にはいろいろな種類の水草が生え、ドジョウやタナゴにメダカ、カエルやその子どものオタマジャクシ、トンボの子どもでもあるヤゴ、ヒメタイコウチなどの昆虫がくらしします。田んぼの畦には明るい草地の植物が、ため池の周りには湿地に生える植物が育ちます。全国的に田んぼやため池が減るにつれて、これらの生きものたちも、数が減ってきています。中には絶滅が心配されているものも少なくありません。大切な明石の生きものたちとそのすみかを、みんなで守っていききたいですね。



ため池の風景

明石いきものコラム

こんちゅうるい
昆虫類

A : 9 種

B : 23 種

要調査 : 46 種

今見られない : 3 種



A ネアカヨシヤンマ



ヨシなど水辺の草がよく茂った池にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、朝と夕暮れ時によく活動します。体の黄色や黄緑色の模様が目立ちます。

A アオヤンマ



ヨシなど水辺の草がよく茂った池や湿地にすんでいます。成虫は初夏から夏に見られ、早朝や夕方に活発に活動します。全身が緑色の美しいトンボです。

A ハッチョウトンボ



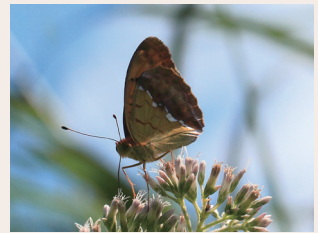
水がしみ出す林沿いの湿地に生息しています。成虫は初夏から夏に見られます。世界でもっとも小さなトンボといわれ、オスの体は全身が真っ赤です。

A ヒメタイコウチ



水がしみ出す山沿いの湿地にすんでいます。小さくて丸っこいタイコウチの仲間、はねが縮んで飛ぶことはできません。動物の体液を吸って生活しています。

A ウラギンスジヒョウモン



明るく広い草原にすんでいます。初夏と秋に見られ、成虫はいろいろな花で蜜を吸います。幼虫はスミレの仲間の葉を食べて育ちます。

A ウラナミジャノメ



明るい草地にすみ、初夏と秋に見られます。地味な色ですが、はねの裏側はうす茶色のさざ波に大きな目玉模様が目立ちます。幼虫はイネの仲間の葉を食べます。

A フタモンクモバチ



石垣の多い神社や竹林の周辺にすみ、夏に見られます。石垣のすきまなどに巣をつくり、大型のオニグモの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

A キゴシジガバチ



草地や住宅地の周辺にすみ、夏に見られます。泥で固めた巣をつくり、オニグモの子どもやハナグモの仲間を捕まえて運びこみ、卵を産みつけます。

A ウスリリモンハナバチ



明石では里山林にすんでいて、成虫は夏から秋に見られます。黒い体に水色の毛が所々に生えた、美しいハチです。アキノタムラソウなどの花で蜜を吸います。

B オオイトトンボ



浮き草の多い池や水田周辺の水路にすんでいます。成虫は春から秋まで見られ、水面付近で活動します。オスは水色、メスは緑色や水色をしています。

B サラサヤンマ



山沿いの湿地や林の中の小さな池にすんでいます。成虫は春から夏に見られ、オスは水面上を飛びながらメスを探します。黒い体に黄色の模様があります。

B ヨツボシトンボ



水草がしげる池や湿地にすんでいます。成虫は春から初夏に見られます。はねに4つの黒い部分があることが、名前の由来になっています。

B キトンボ



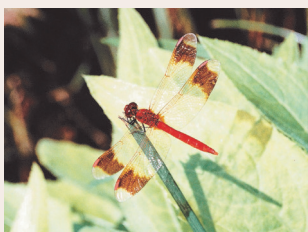
木陰があり、秋に水が減って岸が出るような池にすんでいます。成虫は夏から冬の初めに見られます。体とはねの大部分が黄色いので、この名前がついています。

B ナニワトンボ



秋に水が減って岸が出るような池にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、オスは全身が真っ青で、水辺の石の上や杭にとまってなわばりを張ります。

B ミヤマアカネ



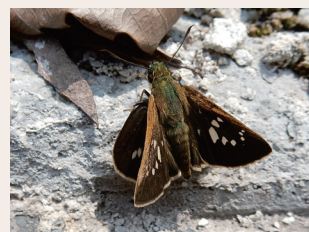
田んぼや水路など流れがゆっくりな水辺にすんでいます。成虫は夏から秋に見られます。はねにある太くて茶色い帯がよく目立つ赤とんぼの仲間です。

B ハルゼミ



アカマツの林にすみ、珍しく春に見られるゼミの仲間です。日が差すと、成虫は一齐に「ムゼームゼー」と聞こえる鳴き声で合唱します。

B オオチャバネセセリ



林のそばにある草地にすんでいます。成虫は初夏と秋に見られ、アザミなどいろいろな花で蜜を吸います。幼虫はススキやササの葉を食べて成長します。

B ミズイロオナガシジミ



森や林にすみ、初夏に見られます。灰色の地味なシジミチョウですが、後ろはねに尾っぽのような突起があります。幼虫はコナラなどの葉を食べて育ちます。

B アカシジミ



森や林にすみ、初夏から夏に見られます。成虫はオレンジ色をしており、夕暮れ時に高いところを活発に飛びます。幼虫はコナラなどの葉を食べて育ちます。

B ミドリシジミ



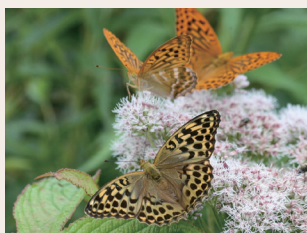
湿地のハンノキ林にすんでいます。成虫は主に初夏に見られ、オスは緑色に輝くはねを広げて葉にとまり、なわばりを張ります。幼虫はハンノキの葉を食べます。

B ゴイシジミ



ササがよく茂った林にすんでいます。成虫は春から秋に見られ、はねの裏側は白地に黒い斑点の模様があります。幼虫はアブラムシを食べて生活しています。

B ミドリヒョウモン



林に近い明るい草地にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、ヒヨドリバナなどいろいろな花で蜜を吸います。幼虫はスミレ類の葉を食べて育ちます。

B マイマイカブリ



林や草地にすみ、地上を歩き回ってミミズやカタツムリを食べます。首がとても長い変わった形をしており、はねはくっついて飛ぶことができません。

B コカブトムシ



森や公園の林にすみ、成虫は夏から秋に見られます。その名の通り、小さくて黒いカブトムシです。オス、メスともに小さな角を持っています。

B クロマダラタマムシ



山沿いや神社にすみ、春から夏に見られます。成虫は黒く輝く体に卵色の斑紋があります。幼虫は大きなエノキの枯れた枝の中に入って育ちます。

B ウマノオバチ



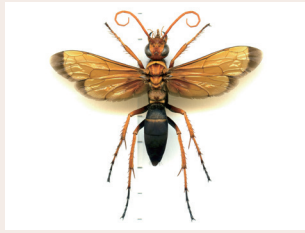
森や林にすみ、春から初夏に見られます。メスは馬の尾の毛のような長い産卵管を持ち、木の奥深くに隠れているシロスジカミキリの幼虫に卵を産みつけます。

B カバオビドロバチ



林の周りや草地にすんでいます。成虫は夏に見られ、竹の筒などに泥で仕切りを作って幼虫のための部屋をつくり、ガの幼虫を運びこんで卵を産みつけます。

B キオビクモバチ



海辺の草地や河原などにすみ、初夏から秋に見られます。地面に穴を掘って幼虫の部屋をつくり、大型のクモ類を捕まえて巣に運び、卵を産みます。

B スギハラクモバチ



枯れ木が多い森や林にすんでいます。切り株や木の穴などに巣をつくり、大きなクモ類を捕まえて巣に運び、卵を産みつけます。

B サトセナガアナバチ



ゴキブリの多い住宅の周辺にすんでいます。春から秋まで見られ、ゴキブリ類の幼虫を捕まえて巣に運び、卵を産みつけます。

B フクイアナバチ



里山の田畑の周辺にすんでいます。夏から秋に見られ、土に穴を掘って幼虫の部屋をつくり、ハネナシコロギスというコオロギの仲間を運びこみます。

B シロスジフトハナバチ



明石では里山林にすんでいて、夏から秋の初め頃、クサギなどの花で蜜や花粉を集めます。ミツバチよりも大きく、おなかに白と黒のしま模様があります。

要 ベニイトトンボ



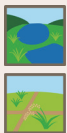
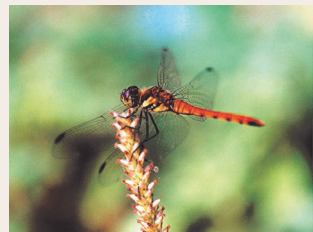
水草がよく茂った池や沼にすんでいます。成虫は初夏から秋に見られ、水辺の草にとまっています。オスは全身きれいな赤色で、名前の由来になっています。

要 カトリヤンマ



林沿いの池や田んぼにすみ、夏から秋に見られます。成虫は薄暗い環境を好み、林の中の暗い場所で休んでいるところをよく見かけます。

要 アキアカネ



水田や池にすんでいます。成虫は夏の間は山に移動して過ごし、秋に田んぼに戻ってきて卵を産みます。昔から「赤とんぼ」として親しまれてきました。

要 ノシメトンボ



水田や池にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、夏は林の縁にいて、秋に田んぼやため池で卵を産みます。はねの先に大きくこげ茶色の斑紋があります。

要 ダイミョウセセリ



森や林にすんでいます。成虫は春から秋までの間に2～3回発生し、ヒメジョオンなどの花で蜜を吸います。幼虫はヤマノイモの葉を食べて育ちます。

要 ホソバセセリ



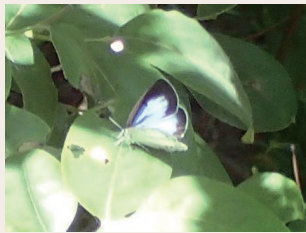
林のそばにある草地にすんでいます。成虫は夏に見られ、ふらふら飛んではアザミなどの花で蜜を吸います。幼虫はススキなどイネ科の葉を食べて育ちます。

要 コチャバネセセリ



ササがよく茂った林にすみ、春と夏の2回発生します。成虫は体が小さく、とてもすばしっこく飛び回ります。幼虫はササの仲間の葉を食べて育ちます。

要 ウラゴマダラシジミ



森や林にすみ、成虫は初夏に見られます。はねの表面は薄い紫色で黒いふち取りがあり、とてもきれいです。幼虫はイボタノキの葉を食べて育ちます。

要 オオミドリシジミ



森や林にすみ、成虫は夏に見られます。オスは午前中に活動し、葉の上にとまってなわばりを張ります。幼虫はコナラなどの葉を食べて育ちます。

要 ウラナミアカシジミ



森や林にすみ、成虫は初夏から夏に見られます。はねの表側は鮮やかなオレンジ色、裏側は黒いしま模様があります。幼虫はクヌギなどの葉を食べて育ちます。

要 シルビアシジミ



河川沿いなど日当たりのよい草地にすみ、春から秋まで何度も発生します。小さく青いシジミチョウで、幼虫はミヤコグサを食べて育ちます。

要 イシガケチョウ



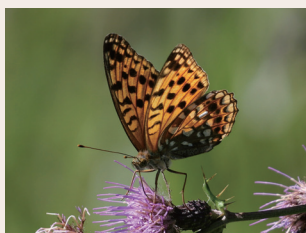
日当たりのよい林にすんでいます。成虫は春から秋に見られ、はねには白地に黒い線が入った石垣のような模様があります。幼虫はイヌビワの葉を食べます。

要 メスグロヒョウモン



林のそばにある草原にすみ、夏から秋に見られます。オスはオレンジ色、メスは黒っぽい色をしています。幼虫はスミレの仲間の葉を食べます。

要 ウラギンヒョウモン



明るい草原にすみ、初夏から秋に見られますが、暑い夏は活動を休みます。成虫はアザミなどで蜜を吸います。幼虫はスミレ類を食べて育ちます。

要 イチモンジチョウ



森や林にすみ、成虫は春から秋まで3回ほど発生します。はねには黒地に白い1本の帯があります。幼虫はスイカズラの仲間の葉を食べて育ちます。